

島根県ウエイトリフティング協会

—— これまでのあゆみ

島根県にウエイトリフティング競技が導入されたのは、国体誘致の機運が出てきた昭和40年頃であった。島根県体育協会が、新種目の育成として普及のための講習会を開催し、県内の投擲選手などが受講した。同時に、部活動の普及を図るため、陸上競技の初代専門委員長を務めた松井初雄氏を指導者に充て、出雲農林高校に部を設置することとした。しかし、競技経験者がいない状況下、先進県の岡山県の協力を得るため休日を利用しての岡山通いが続いた。関係者の努力により、徐々に底辺拡大の傾向が表れ、松江工業高校、江津工業高校、浜田高校、飯南高校などにも部や同好会の拡がりをみた。

昭和46年、小川高志選手（出雲農林高校）が全国高校総体において協会悲願の初入賞をすと、以後全国大会での入賞が続き、昭和53年には加納修選手（浜田高校）が山形インターハイで協会初の優勝を成し遂げる。昭和57年の「くにびき国体」でも、少年の部出場3人全員が入賞し、翌年には竹田貢選手（出雲農林高校）が、その翌年には荒木修二選手（同）が連続して全国優勝を成し遂げ、着実に成果を積み上げた。

平成6年には今岡和則選手（同）、平成8年には矢野博志選手（同）が共に日本高校新記録を樹立し全国優勝を成し遂げる。国際大会においても、平成2年にドイツで開催された第17回世界ジュニア選手権大会で河井健二選手（出雲農林高校→法政大学）が、54kg級で銅メダルを獲得する快挙を達成した。まさに島根県ウエイトリフティング協会関係者の破竹の大活躍が続いた。

東京オリンピックで正式種目となった女子競技に向けて、国内の女子強化が本格化する中、本県においても多くの女子選手の活躍があった。平成25年には全日本女子

選抜大会で渡部柚奈選手（出雲農林高校）が準優勝。後に金沢学院大学4年時には49kg級の日本代表として国際大会に出場し準優勝を飾る。平成28年の全日本女子選抜大会では北村優果選手（同）が3位入賞。令和5年の全国高校女子選手権でも猿木雅選手（同）が3位に入るなど活躍が続いた。

—— 現在の状況

平成においては、出雲農林高校ウエイトリフティング部の活動の充実ぶりが競技全体の活躍に大きく貢献した。部員数でも毎年1校で30人を超え、中国地区では最も多く、それが選手個々の競争を生み、結果として各種全国大会で多数の入賞者を輩出した。また大学進学者も多数生み出すなど、成年並びに少年の競技力の向上を支える原動力となっていた。令和に入り、指導者の交代と部員数が減少傾向を示す中、現状でできるさまざまな工夫と協会の献身的な努力により、諸行事の円滑な推進、競技力の一層の向上に努めている。

—— これから

選手と指導者が一体となって、活気ある活動で大きな実績を残した平成の時期から見ると、近年やや寂しさも感じている。しかし、何事にも協力的で献身的な協会員の支援や指導体制の一新を図れたことで、新たなスタートを切ることができた。これを機に円滑な協会運営、効率的で持続的な強化策を構築し、新たな発展を目指していきたい。



平成28年、全日本女子選抜大会で3位入賞した北村優果選手(出雲農林高校)



平成25年、全日本女子選抜大会で準優勝した渡部柚奈選手(出雲農林高校)